

## 有人潜水調査船しんかい 2000 の輸送から展示まで

○崎山直夫・竹嶋徹夫・瀬山智久・小出一城・細川拓也・飯塚一郎・堀 由紀子（新江ノ島水族館）  
満澤巨彦・三輪哲也（JAMSTEC）

協力： 日本海洋事業株式会社，海洋研究開発機構（JAMSTEC）海洋工学センター  
三菱重工業(株)，夏島運輸(株)，藤野戸運輸(有)，勝沢運輸(株)，(株)ゴールドスター

独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）は、2004年3月に廃船となった「しんかい2000」（以後、しんかい）について、科学技術の歴史的資料としてより多くの方々の目に留まるよう、集客力の高い機構外の科学館・水族館等にて展示をすべく外部展示場所の公募を行った。そして、新江ノ島水族館（以後、当館）が外部展示先として選ばれた。

当館では2012年はじめから江の島への輸送ならびに展示の実施案を検討した結果、展示場所は最終的にタッチプールのあるピロティ様の半屋内スペースとなった。海岸に面した立地のため、壁を取り付けて観覧通路には扉を設けて風雨などから船体を守るようにした。しんかい搬入に先立って既存のタッチプールを取り壊し、搬入路以外の外壁を設置した。

陸路の輸送ならびに駐車場から展示場所への移動にあたっては、しんかいの一部解体が必須となった。そのため、本船の建造ならびに補修にあっていた三菱重工(株)らが作業にあたった。解体作業は5月15～16日にJAMSTEC整備場で行われた。垂直尾翼、水平尾翼、主推進器、浮力材、骨組みを含むしんかい後部約1/3と、昇降塔、補助推進器などが外された。

輸送は、主に23t積載トラックで行い、分解した各部品類や別途展示予定のしんかいシュミレーターなどは別車で輸送することとなった。5月28日の夜、しんかいに携わった方々に見送られてJAMSTEC横須賀本部から搬出、29日の早朝に新江ノ島水族館へ搬入した。同日の午前中に展示予定位置まで移動した。そこから5月1日にかけて再組立て作業を行い、外した各部品を復旧した。

しんかい組立完了後、残りの外壁を設置。そして、電気、照明、空調、音響、断熱などの設備を整え、最終的に内装、展示部分の仕上げを行い、7月14日から「深海Ⅱ～しんかい2000～」として一般公開を開始した。展示解説は、来館者にしんかいの仕組みや業績を理解していただくとともに、深海研究の未来へと導くストーリーにした。しんかいの周囲は低いアクリル板で仕切られているものの、手を伸ばせば触られる、観覧者に近い展示となった。

今後は当館において、しんかいの展示やプログラムを通して多くの人に、しんかいの業績や価値、そして、深海の魅力を伝えていきたい。



輸送のために一時解体されたしんかい2000



新江ノ島水族館での展示の様子